

## 平成31年度 旅の文化研究所

# ◆◇◆第26回公募研究プロジェクト◆◇◆

### 公募研究の概要

#### 1. 研究の対象

移動・旅・観光に関連する諸問題をテーマとした独創的な研究とします。

#### 2. 申請者の資格等

当研究所が公募する研究プロジェクトは、次の要件を満たすものとします。

資 格	研 究 体 制	研究期間
日本の大学院に在学する学生、日本の大学・大学院・研究機関等に籍を置く研究生・研究員（留学生を含む・海外からの出願も可）	個人研究に限る（海外調査も可）	1年間

#### 3. 研究期間

研究期間は1年間（平成31年4月～平成32年3月）とします。

#### 4. 研究費

選択された研究プロジェクトに助成される研究費は、1件あたり50万円以内です。

#### 5. 研究成果の発表

研究成果は、当研究所が作成する『研究報告』に掲載するほか、「旅の文化研究フォーラム」にて口頭発表を行なうものとします。

### 応募方法

- 募集要項（申請書類を含む）は、旅の文化研究所ホームページからダウンロードすることができます。
- 申請書類は、必要事項を記入し、必ず**簡易書留**にて郵送してください。
- 応募受付期間は、平成30年9月1日（土）から10月31日（水）（当日消印有効）です。

### 選考結果

選考結果は、平成31年2月中旬に文書にて通知する予定です。

※ 第1回～第25回公募研究プロジェクトの一覧は、旅の文化研究所のホームページをご参照ください。

#### 《応募・問い合わせ先》

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 1-3-4 東京浜町近鉄ビル 5階 旅の文化研究所「公募研究」係  
TEL: 03 (5820) 0360 (電話は平日のみ、10:00～17:00)

旅の文化研究所ホームページ <http://www.tabinobunka.com>

# 旅の文化研究所

Institute for the Culture of Travel

## 理 念

人類の重要な営みのひとつに“旅”がある。それは、長い歴史を通じてさまざまな展開をみたが、現代はより多様化する傾向にある。そこで、「旅の文化」の意義を、とくに人間的、学際的、国際的な立場から解明することが重要な課題となってくる。

本研究所が調査・研究の対象とするのは、このような「旅の文化」の基本的問題とその応用的課題である。また、その成果にもとづき、広く出版や講演などの活動を通じて、「旅の文化」の質的な向上をめざすものである。

旅の文化研究所は上記の理念にもとづき、  
1993年7月1日に設立されました。

## 1 調査・研究事業

旅の文化研究所は、移動・旅・観光に関連する諸問題を主な研究対象とし、研究所として恒常的な研究プロジェクトである「特定研究」と、広く一般から公募する研究プロジェクトである「公募研究」の二区分で調査・研究事業を展開しています。

### 特定研究

「軽便鉄道の記憶」（平成28年度～平成30年度）

本プロジェクトでは、軽便鉄道にまつわる記憶をさまざまな角度から掘り起こし、地域社会において軽便鉄道が担ってきた役割を明らかにするとともに、軽便鉄道をとおしてみた旅と交通の変遷の諸相をとらえる。

### 公募研究

日本の大学院に在学する学生を対象とし、独創的かつ斬新な発想による研究プロジェクトを公募し、選考のうえ採択された研究プロジェクトには研究費が助成されます。

## 2 出版事業

旅の文化の調査・研究を行う当研究所では、その成果にもとづいた『研究報告』や論集などのほか、季刊誌『まほら』の編集・発行を行っています。

### 『研究報告』の発行

設記念特集号は『研究報告』No1に、特定研究関係は『研究報告』No2・No5・No20に、公募研究関係は『研究報告』No3・No4、No6～No19、No21～No27にそれぞれ収載されています。

### 季刊誌『まほら』の発行

発刊のことば（抜粋）…『まほら』とは、すぐれたよいところ（国）を表す古語である。ちなみに、観光の本義は、『易経』によると、国の光を観る、ということであった。本誌『まほら』は、ただ旅にまつわるさまざまなを報告するだけでなく、それぞれが「そこでどう考えたか」を提示して誌上での討論を試み、旅の文化の成熟を目指すものである。

季刊誌『まほら』年4回（1月・4月・7月・10月）発行 年間購読料3,000円（税・送料込）

## 3 研修・教育事業

研修・教育事業の一環として年に1回の一般公開フォーラムを開催しています。

- ・式年遷宮記念フォーラム「伊勢への旅人たち」（2012年10月1日東京にて開催）
- ・第2回式年遷宮記念フォーラム「伊勢参りの今昔」（2013年10月17日東京にて開催）
- ・旅文研フォーラム「旅と食」（2015年3月6日東京にて開催）
- ・伊勢再発見フォーラム「伊勢への旅—倭姫から喜六・清八まで」（2016年2月21日大阪にて開催）
- ・旅文研フォーラム「今も昔も東海道」（2016年10月26日東京にて開催）
- ・『旅の民俗』シリーズ出版記念フォーラム「人はなぜ旅に出るのか」（2017年10月31日東京にて開催）

## 4 顕彰

### 旅の文化賞

「旅の文化」に貢献した諸活動の中から、特に独創的な旅の体験により、これを作品として広く社会に紹介したり、その他の諸活動を通じて旅の文化の質的向上に貢献した個人または団体を選考し、「旅の文化賞」として顕彰します。

#### 過去の受賞者／団体

年度	受賞者／団体
平成22年度	北見けんいち（漫画家）
平成23年度	安野光雅（画家）
平成24年度	野本寛一（近畿大学名誉教授）
平成25年度	筒井 功（民俗研究者）
平成26年度	フローラ・ジャスミン（司法通訳士）
平成27年度	竹田津 実（獣医師・動物写真家・エッセイスト・児童書作家）
平成28年度	一般社団法人 満蒙開拓平和記念館
平成29年度	今井啓輔
平成30年度	菅波 茂（AMDAグループ代表）

## 組織

〔委員会の構成〕（五十音順・2018年4月1日現在）

- 運営評議委員 石 森 秀 三（北海道博物館館長・北海道大学観光学  
高等研究センター特別招聘教授・北洋銀行顧問）
- 川 上 隆 志（専修大学教授）
- \* 神 崎 宣 武（民俗学者）
- 倉 橋 孝 壽（近鉄グループホールディングス株式会社 取締役専務執行役員）
- 高 媛（駒澤大学准教授）
- 佐 伯 順 子（同志社大学大学院教授）
- 白 川 正 彰（近鉄グループホールディングス株式会社 取締役常務執行役員）
- 千 田 稔（国際日本文化研究センター名誉教授・奈良県立図書情報館館長）
- 高 田 公 理（武庫川女子大学名誉教授）
- 原 恭（近鉄グループホールディングス株式会社 東京支社長）
- 丸 山 隆 司（KNT-CT ホールディングス株式会社 取締役社長）
- 水戸岡 鋭 治（デザイナー・㈱ドーンデザイン研究所代表）
- 山 根 基 世（元NHKアナウンス室長）

顧 問 山 崎 朋 子（作家）

\*=所長

